



～家庭で出来る学力向上方法～

◇非認知能力の一つが、自分が好きという感情◇

日本の子どもたちは、自己肯定感が低いとよく言われます。非認知能力である自己肯定感を見る質問の一つが「自分には良いところがありますか」となり、OECDの国際調査の結果でも、日本の子どもたちの自己評価の低さは際立っています。

そして、そのことは、日本の大きな課題だと私自身の反省も踏まえて感じています。今秦野の学校は、非認知能力に着目した「学びの基盤プロジェクト」を導入し、子どもたちの非認知能力に着目した学力向上に市全体で取り組んでいます。

では、家庭でできる学力向上法ですが

- 1 よく言われますが「子どもさんの良いところを誉める」
- 2 「子どもさんに意見を求める」ことが自我の成長を促します。
- 3 家庭でも読書の環境を整える と私は考えています。非認知能力（自分の良いところ）を自覚することで子どもたちの学びに向かう意欲が高まります。家庭でも実践してみてください！



内閣府「令和元年版子供・若者白書」
特集1 日本の若者意識の現状より



新たな学びサポート相談会開催決定！

前回お知らせしました**新たな学びサポート相談会**を

11月25日（月）15時から秦野市保健福祉センターで開催することになりました。

この会は、いわゆる不登校、新たな学びの場を求める児童生徒並びに保護者の皆様の相談会と、公私を問わず支援していただく皆様が一堂に会して情報共有も行う内容です。

また、公認心理師を講師にお招きし不登校の子どもに関わる親や教師の具体的な待ち方・促し方についても参加者が全員で確認したいと考えています。**既に8月にスタートした「はだのっ子eスクール」にも7件の相談があり、3名の入室も決まり、新たな体制も軌道に乗り始めています。**

申し込み方法等は10月中にお知らせしたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。

現在もeスクールは入室受付中
⇒秦野eスクールで検索を



いじめ防止に向けて

本市では、いじめの未然防止を図るため、国・県と連携し、令和3年度より道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業を活用したモデル校を設置するなど市全体で取り組んでいます。

9月20日には、**モデル校となる南が丘中学校において、市内各校にも教職員の参加を呼びかけ、改めていじめ防止の意識徹底のため講演会を開催しました。**

講師は、**NPO法人ジェントルハートプロジェクト理事の小森美登里氏**をお招きしました。小森さんは娘の香澄さんが高校でいじめに遭い、自ら命を絶つという辛い経験をされ、講演では「やさしい心が一番大切だよ。その心をもっていない方がかわいそう。」という香澄さんの生前の言葉の紹介もあり、**参加した生徒・教職員が改めて「いじめ防止」を考える機会**となりました。

研修会自主参加校
堀川小学校・北小学校・
東中学校・南中学校



改めて教育長だよりについて

先日教育長だよりを読んでいただいた地域の方より、内容がイベントの紹介になっていないかという、お叱り？励まし？をいただきました。この教育長だよりは、当然内容のチェックや発信は指導主事さんをお願いしていますが、指導主事や事務局が代わりに書いているのではなく、**私が全部書いています。**学校新聞づくりが盛んな秦野ですが、30年近く中学校の体育教師を務めてきた私にとって、まったく自信のない分野でした。しかし、始めて見ると「読んでます」という方からの励ましも多く、老体に鞭打って努力しています。イベントについても情報が洪水のように流れてくる社会、私のイチオシ情報を掲載しております。ご理解いただけたら幸いです！

